

祝一千號 (四)

磐城銀行專務  
白井一郎

元郡役所前  
磐城共濟病院  
電話六四一番

中山白土小泉岩石材販賣所  
土木建築請負  
喜多林之助  
磐城平町月見町

旅館水戸屋  
宮崎善太郎  
磐城平町停車場前  
電話三五六番  
電略(ミヤ)又ハ(ミ)

二本松電氣株式會社  
平出張所  
磐城平白銀町六  
電話一五九番

人造石類各種防水劑  
ロータス販賣店  
住吉屋セメント店  
電話六六一番

株式會社第七銀行平支店  
田中稔  
電話三一八番

藥劑師  
水野清一  
磐城平町研町

和洋結髪美顏術  
衣裳着付  
水野化粧院  
磐城平町四間町  
電話五二五番

平町一丁目七  
合資會社  
平銃砲火藥店  
渡邊貫一  
電話一〇九番

和洋菓子問屋  
高岡商店  
平町研町

平町搔搥小路  
江口忠一  
電話五一九番

有聲座  
電話四四六番

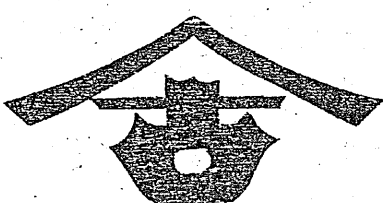
飲むとすぐキク  
クノ一散  
齒痛、神經痛、頭痛の特効藥  
平町各藥店に販賣す  
試みられよ、

南部鐵瓶 月賦 御便宜ニ致シマス  
ホーキンの爐力ギ 大中小...精巧優美  
各種...ナ作デス  
南町廿九番地  
南部屋

内科 小兒科 花柳科  
藤沼醫院  
平町紺屋町  
電話五〇七番

◎昭和今春の流行行  
婦人洋傘 春帽子各種  
驚く可き!  
春ワイシャツの  
特價物(二圓二十錢  
特價物(二圓五十錢  
賣切にならぬ中に  
平町四丁目(電話二四番)  
鶴屋洋品店  
肺病ロクマクの妙藥  
ホシアンチツベルゲン  
(五日分定價一圓八錢)  
過去十有八年幾多の人を救  
へる東洋一の此靈藥  
肺を病む人 迷ふ勿れ  
疑ふ勿れ 信賴せよ  
平町三丁目  
ホシチエーンストア  
電話四二九番

登 録 商 標



醬油 味噌 鰹節 酒類 罐頭食品

製 造 問 屋

鹽屋山崎合名會社

電話 營業部 一〇番  
工場 二七番

常 警 論 壇

本黨の崩壊は當然  
政界通人

憲本の新黨計畫は大分難産してゐるやうだがあんなに大騒ぎして流産させるわけにも行かないから何とかして生れることは生れるであらうが到底満足なものが出來そうにも思へない、新黨樹立の理由は何とでもつけられるであらうが其の動機が憲本聯盟の後始末をつけざる爲めにあることは言ふまでもない、即ち三黨首の申合せを裏切つて憲政會と政權の盟廻しを目論だといふ

これが抑も床次君の自惚病から出た間違ひで床次君は大賭博を打つて失敗したといつてゐるやうだが獨り政治家に限らず公人の出所進退といふことは最も大切で一旦之れを誤るときは殆ど取り返しのつかないことになる床次君は自ら大賭博を打つて失敗したと覺つたならば今日の苦境に立つことも豫め覺悟してゐるべきである、本黨をして潰滅の運命に陥らしめた責任は床次君自ら負はねばならぬ筈である、而もなほ歴史も地盤も其の他の關係に於て全然相容れざる憲政會と合同して其の窮境を脱さんとす

るが如きに至りては元より其の事情に於ては餘儀なきものがあるであらうし又今日となりては最早抜き差しならぬ破目に陥つてはゐるであらうが如何にも氣の毒なものである、若槻君にしても第五十二議會であんな姑息な態度に出ずして解散の手段に訴へたならばよし敗るゝまでも政治家としての出所進退をば斯くまでも誤ることなくしてすんだであらうし更に議會後直に桂冠してもまた相當終りを完ふすることが出来たであらうに盟廻しなどいふ陰謀を企てた爲めに遂に今日の如き苦境に立つことになつた

常 警 日 報

日刊 發行部編輯人 川崎文治

本社下町番地(電話六三〇番)  
印刷部 常警毎日新聞社  
電話六三〇番

定 額 一 部 金 貳 錢 一 角 五 分  
一 部 金 貳 錢 一 角 五 分  
一 部 金 貳 錢 一 角 五 分  
一 部 金 貳 錢 一 角 五 分

休 日 日 曜 日 祭 日  
休 日 日 曜 日 祭 日  
休 日 日 曜 日 祭 日

五 月 五 日 夕 刊

